

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
79	川崎市立 平小 学校	松沢 隆

学校教育目標	今年度の重点目標
心豊かでたくましく、実践力のある子供の育成 ・元気な子 ・考える子 ・やさしい子	・各教科での基礎基本の定着・教員の授業力の伸長 ・自主性の尊重 ・自己有用感と共感的理解の育成 ・SDGsの教育活動全般での取組・積極的な情報配信

評価項目	具体的な取組	成果(○)と課題(●)	具体的な改善策
学 習	学習活動の充実 教員の授業力の伸長	○校内研究や実技研修をもとに、学年間での共通理解や系統性を見据えた活動が深められた。 ○校内研究の教科を国語にしぼったことで子供たちの言語活動を活発にすることができた。また、それが他教科の学習にもつながってきた。 ○各教科の常任委員の先生から授業で使える実技指導の研修会を行った。わかりやすい内容で、授業に取り入れることができた。	・校内研究で取り組んでいる国語だけでなく、他教科にも主体的・対話的で深い学びの実現に向け、系統性も考え、今後も共通理解を更に深めていく。 ・校内研究において見えてきた反省を次年度に取り組んでいく。(年間を通して国語が苦手な子供に対する指導法や手立て・語彙力を高めていく取り組みなど)
	カリキュラムデザイン	○モジュール、総合的な学習の時間のカリキュラムを完成できた。	・活用しながら加除訂正をし、内容を充実していく。
	GIGAスクール構想の推進	○学習におけるGIGA端末の活用方法を学年で模索できた。(調べ学習、スライドやオクリンクでのまとめ、資料提示、ミライシードでの復習など) ○長期休業時の課題としてGIGA端末を持ち帰り活用するなど、家庭との連携を図りながら取り組むことができた。 ○ICT支援員と連携を図ったことで、より充実した授業づくりができた。(資料作成や学習補助など)	・次年度も引き続き、GIGAスクール構想の推進をしていく。

読書活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館や図書館司書の活用を広めていく。 ・学習活動における図書室利用を増やすため、教科書に掲載されている本や川崎子ども100選をそろえた本棚を設置する。 ・子供の読書意欲を喚起するため、読書記録の取り組みを行う。(冊子・GIGA端末を利用) 	<p>○巡回司書による図書館活用の研修を実施した。授業の中で図書室やその本の活用について学ぶことができた。</p> <p>○図書館司書との連携を図り、学習の中における調べ学習の本の選定を相談することができた。リクエストシートを作成し、活用した本一覧を次年度にも引き継げるシステムができた。</p> <p>○教科書掲載の本や子供100選の本が設置できる本棚ができ、図書館より活用がしやすくなった。また古い本を学級文庫にすることで、クラスの蔵書が増え、読書喚起も図ることができた。</p> <p>○国語の学習とリンクして、宮前図書館から関連する図書を貸し出し、読書意欲を喚起した。</p> <p>○図書委員会を中心に読書記録の方法を提案したり、図書委員の仕事体験を実施したりする中で、子供たちの読書意欲を喚起することができた。特に低学年は意欲的に読書をする楽しさを感じる子供が増えた。</p> <p>●高学年は、委員会や実行委員活動への取り組みがあり、図書室利用を増やすことが難しかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年の図書室利用や読書喚起方法を学習とリンクさせたり、図書委員の活動の中で考えたりしていく。
児童会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動を行う。 ・異学年と交流する活動を増やす。 ・50周年記念式典に向けて、子供たちの愛校心を育てるための活動を計画する。 	<p>○あいさつを広めるために、運営委員会が中心となってあいさつ運動をした。</p> <p>●あいさつ運動の場ではあいさつをするが、それが普段の生活の場になると、まだ自分からできない児童が多い。</p> <p>○運動会で活躍した6年生に対し、学校全体で感謝の気持ちを伝えるために、集会を企画し実行した。</p> <p>○創立記念日に合わせて、お誕生日集会を企画し全校で交流しながら楽しめる集会を開いた。委員会が中心となり実行した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、児童会が中心となって、子どもたちの意見や考えを具現化できる場を設定していきたい。 ・高学年が学校の中心となり、下級生をリードしていけるように声掛けをしていきたい。 ・子供たちのアイデアを生かしながら、50周年に向けて平小学校オリジナルの集会や企画を増やしていきたい。
委員会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・常時的活動だけでなく、創造的な活動を増やしていく。 ・委員会朝会を開き、活動内容を全校に知ってもらう。 	<p>○委員会集会では、低学年から高学年まで、全校が楽しめるような工夫をしながら発表をすることができた。</p> <p>○委員会活動では、子供たちのアイデアや思いを大切にしながら活動することができ、自主性を育てることができた。</p> <p>○上の学年が下の学年の子をリードしながら、活動する姿が見られた。</p> <p>●常時活動に来るのを忘れてしまう子がいた。自分の役割には最後まで責任がもてるようにしていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も創造的な活動を広げ、児童の自主性を育成していく。 ・SDGsにつながる活動も、各委員会で考えていく。 ・常時活動に対し、最後まで責任をもって行えるようにするために、担当教諭は声掛けをしたり、担当日が分かるように分担表を掲示したりするなどの具体的な手立てを考える。

特別活動

クラブ活動	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容を、教師主導ではなく子供たちから提案することによって、自主性を育てていく。 ・異学年が交流しながら活動できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的に、異学年が交流できるように工夫をしながら活動することができた。 ○高学年が、下級生を助けたりリードしたりする姿が見られた。 ○担当教員を頼る姿が減ってきた。自分たちで計画をし、実施する力がついてきた。 ○クラブ活動の前に、子供たちから次回の予定を確認する声があがるようになった。 ●自主的に行動できる子が増えた一方で、まだ担当教諭を頼り、受け身で活動している子供たちも少なくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブを子供たちの手で立ち上げることによって、自分たちが活動を支えている意識を育てていく。 ・年間活動予定をしっかりと立て、子供たちが見通しをもって活動できるようにすることによって、自主的に行動できるようにしていきたい。
他者理解	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人を認め合える雰囲気づくりに努める。 ・言語環境を整備し、人権感覚を向上させる。 ・学校生活のさまざまな活動において、友達とかかわる活動を積極的に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○職員向けの人権研修、児童には、道徳や共生・共育などを通して、人権感覚に触れる機会をもった。 ●友達に対する言動などにはまだまだ課題が残るので、引き続き指導していきたい。 ○担任を中心に一人一人に丁寧に対応してきた。子供同士も友達への声かけをしたり、人によっては見守ったりするなど、一人一人を認め合える雰囲気ができてきている。 ○コロナによる制限もなくなり、グループ活動、学年内交流、学年間交流など、友達とかかわる活動を積極的に取り入れてきた。友達とかかわる楽しみに学校に前向きに登校する子供が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達同士のかかわりを引き続き見守り、お互いを高め合えるような声かけをしていきたい。
支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・通常級における特別に支援が必要な児童への支援を実施する。その際、専門機関(通級など)を活用し、多面的に支援の方法を考える。保護者、場合によっては本人ともコミュニケーションをとりながら、考えていく。 ・ケース会議を必要に応じて適宜開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○通常級で特別に支援が必要な児童が増えてきた。本人、保護者の思いや困り感、担任の実態把握を総合して、それぞれの抱えている問題を明らかにするようにしてきた。通級のセンター的機能、巡回カウンセラー、SSWなども活用し、より専門的な立場からのアドバイスももらってきた。引き続き支援に役立てていきたい。 ○ケース会議をなるべく迅速に行うようにしてきた。関係学年、管理職、CO.ですぐに集まることのできる体制ができていく。今後も問題を察知した、もしくは起きる前から早めにケース会議を開き、関係者で情報共有、支援協議をしていきたい。 ●特別支援学級への在籍替え希望が増えてきた。通常級における一次支援が今後の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの行動の裏にある困り感を明らかにするために、児童理解に努める。 ・今後も問題が起きたら、もしくは起こりうるであろうときに迅速にケース会議を開き、関係者で情報共有していきたい。必要に応じ、全体にも伝えていく。 ・教室での一次支援の充実のために、学年での協力体制を充実させ、子供を多面的にとらえられるようにしていきたい。年度始めの平スタンダードの周知もしっかり行っていきたい。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級の充実を図る。一人一人に応じた個別支援計画の作成、支援の実施。保護者や本人とのコミュニケーションを積極的に図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○支援級担任全員で子供たちを見ている。一人一人に応じた指導を実践している。保護者とも送迎の際にコミュニケーションを積極的にとっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も引き続き、一人一人に応じた指導を実践していく。

支援教育

<p>児童の安心安全 いじめ防止</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「平小いじめ防止基本方針」を周知し、いじめの未然防止、早期発見に積極的に取り組む。 ・「平っ子の生活(ルール)」を適宜確認する。 ・学校生活アンケートを定期的実施し、児童の困り感を把握し、早期に対応する。学校巡回カウンセラーを活用する。 ・支援教育部会、全体会を通して、児童の情報共有を全職員で行う。 	<p>○「平っ子の生活」については、月1回の児童支援部会などで子供達の様子を見ながら適宜話し合いをして、児童の実態、社会情勢に応じて改定をしている。</p> <p>○学校生活アンケートやその時の聞き取りなどを通して、子供達の声を聞くように努めている。いじめや不登校の早期発見につなげたい。学校巡回カウンセラーも活用できている。</p> <p>○いじめを認知したら、すばやく学年、CO.、管理職とで情報共有し、チームで対応するようにしてきた。</p> <p>○児童の情報共有を迅速に行うように努めてきた。児童支援部会、必要に応じて打ち合わせで情報を共有するようにし、職員全員で児童を見守る体制をつくってきた。</p> <p>●いじめ認知の弱い部分がある。</p>	<p>・いじめの認知が弱い部分については、いじめの定義の周知徹底、記録の残し方について新たな形式をつくったので、来年度も必要に応じて続けていきたい。</p>
<p>防災教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋英和女学院の桜井愛子先生を講師に迎えて、土砂災害防止について職員の見識を深める。 ・不審者へに対応について理解を深め、校内の不審者への対応について強化をする。 ・年間7回の避難訓練を行い、迅速に避難をして自分の身を守ることができるようにする。また、そのうち1回は、子供たちに予告なしで行うことで、より実践に近い避難の訓練になるようにする。 	<p>○夏休みに職員研修として、土砂災害ハザードマップの見方や避難の仕方について研修を行った。専門的に研究している講師の先生からお話を聞くことができたので実際の避難にいかせるように計画を進めていく。</p> <p>○宮前警察署の方々の協力を得て、不審者対応の職員研修を行った。不測の事態に対し、どのように安全を確保するか、職員の判断や連携の取り方について話を聞くことができた。</p> <p>○職員の不審者対応の研修を受け、児童を含めて不審者対応避難訓練を行った。教室での安全確保の方法や不審者を刺激しない連絡の方法などを児童と確認することができた。</p> <p>●不審者対応の訓練を行ったが、災害時と違い発生状況の想定が難しく、想定外の状況下でどのような判断をし、危険を回避するかが難しいと感じられた。</p> <p>○1年間を見通して、前半に避難の仕方や経路など基本的なことを指導した。後期からは休み時間など指示をする先生がいない場面に訓練をすることで、どんな場面でも災害にあった避難ができるような子供を育てるようにしている。</p>	<p>地域の人材をいかした</p>

地域に開かれた学校・現代的課題	<p>地域の人材をいかした</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・畑学習を平小学校の学習の1つの柱と位置づけ、小川さん、小泉さんなど地域の方にご協力いただき、全学年で取り組む。(1・2年さつまいも、3年えだまめ、4年じゃがいも、5年大根、6年小松菜) ・保護者ボランティアを募り、子供たちの学習を充実させる。 ・警察署や消防署、中学校や学校近くの商店など地域の方をお願いをして子供の学習を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小川さんや小泉さんなどにご協力いただき、さつまいもや大豆などの種まきや収穫を行った。子供たちは自分で育て、持ち帰って食べたりと実体験の中で学ぶことができた。後期もまだ残っているのでより充実させたい。 ●畑学習について、子供たちが自主的に活動する場面を増やしていく。 ○町探検やプール学習の監視ボランティアなど子供たちの学習を充実させるため、計画的に保護者のボランティアを活用した。後期もミシンボランティアなど計画的に活用していきたい。 ○地域の警察署や消防署の見学、ゴミ出前スクールなど社会科の学習を中心に地域の公共施設の方々にお力添えをいただき学習を充実させてきた。3年生の神木はやしの学習など後期も地域の教育力をいかした学習を展開していきたい。 ○地域の方々の協力で、ミニコンサート、金管楽器コンサート、サッカー教室、琴体験教室、読み聞かせ、寺子屋と様々な体験の機会をもつことができた。 	<p>収穫する楽しさや、給食や販売を通して味わうなど、畑での活動で児童はとても貴重な体験をしている。児童が自主的に活動できるように、農事ごよみなどを活用し、まいた種や植えた苗がどのように成長するかが分かるような工夫をし、育てている野菜にいつどのような世話が必要なのか児童が考えて動ける活動にしていく。</p>
	<p>幼保小中連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育園との連携会議や、園の先生方の小学校訪問において、情報共有を積極的に行い、子供たちがスムーズに学校生活を過ごせるように連携を取る。 ・近隣の幼稚園児を招待し、1年生と交流をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スタートカリキュラムや小学校や園の生活について情報交換することができた。 ●園児との交流を、2月ごろ予定していたが、実施ができなくなった。来年度以降は、年度当初から園と日程調整をし、実施に向けて計画していきたい。 ○異校種連携事業で情報交換を行い、近況や各校・園での活動について伝え合うことができた。 ○中学校区地域教育会議で役員会を行い、情報交換を重ねてきた。今年度は地域子ども会議、ふれあい音楽祭を開催することができた。 ○地域子ども会議では、中学生が中心となり、向丘中学校区にある4つの小学校の代表児童がオンラインで会議に参加し、各校での取り組みについて情報交換を行った。 ○ふれあい音楽祭に本校は3年生の代表児童が参加し、他校や地域の方々と合奏や合唱を発表し合い、交流することができた。 	<p>異校種交流という活動に際して日程の調整の難しさがあるが、反省にもあるように、早い段階での日程調整を心掛け、充実した活動の実施につなげられるようにする。</p>

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>今年度、平小学校グランドデザインをもとにすすめた取組について、学校教育推進会議にご参加いただいた皆様から、一定の評価をいただいた。特に子供中心に進めたクラブの立ち上げや運営委員会の運動会、1年生迎える会での活動についてよい評価をいただいた。また、校内研究の教科を国語として、言語活動の充実を図ったことや各教科の常任委員の先生から、授業で使える実技指導のポイントを研修の形にして、わかりやすく教えてもらうことで、それぞれの先生の授業力アップにつながったこと、GIGA端末を使い、授業の効率化を図ったことなどを評価していただいた。</p> <p>しかし、今年度の重点であった読書については、保護者・教職員・児童へのアンケートでも課題が残ったことを報告した。推進会議のメンバーの方々からは、子供たちが読書をする重要性についてや子供たちの興味関心を高めながら、読書活動の充実につなげていけるように、たくさんのご助言をいただいた。皆様からのご助言を少しずつ実行に移して、来年度、子供たちの読書活動を充実させていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から、「学習」「特別活動」「支援教育」の3部会を教務会の教員がリーダーとなり学校教育目標の実現のために活動した。具体的な取組は、年度当初に部会メンバーで昨年度の振り返り、子供の実態などから設定した。前期終了時に、取組について評価し、継続していくのか、軌道修正していくのかを検討した。年度末に各部会で最終的な成果と課題を確認し合い、次年度に向けて改善策を考えてきた。さらに、学校教育推進会議の方に評価していただく時間を設け、学校関係者の評価ととしていただいた。最終的に各部会の今年度の取組を教務会のメンバーで相互評価を行い、その結果を職員会議で全教職員に伝え、共有した。 ・今年度は、「拡大要請訪問」を実施した。川崎市総合教育センターの指導主事に2教科の授業実践を提示し、教員ごとに指導講評をいただいた。10月に実施できたので、その後の授業力の向上のための機会としては有益であった。 ・コロナが5類となり、学習や特別活動では、他学年交流を活発に行うことができた。委員会活動のPRや学習の成果を発表することで生まれてくる自己有用感や、友達の思いを共有しあい、友達の頑張りを認めることでの共感的な理解も育ってきたように感じる。 ・いじめをソナーで探知するため、年に3回の学校生活アンケート後に全児童と対話したり、認知した際には、すぐに共有する体制づくりを構築してきた。支援教育CO. を核として早期解決を目指してきた。 ・地域の宝である、畑での農食育では、農家の方に、作物の育て方はもちろんであるが、環境についても学ぶ機会を設けていただいている。また、子供たちが育てた野菜を自校献立で全員で共有することや、高学年は本校のシンボルである「三本松」を守り続けるプロジェクトも継続的に行ってきた。 また、絵本の読み聞かせや図書室の環境づくりに来ていただいている図書ボランティアの方や、町探検でグループの帯同や九九の暗唱を確認、ミシンの操作や調理実習、プールの見守りなど、各学年で保護者ボランティアの力をお借りすることも増えてきていることで、保護者の方々にも学校の様子を見ていただくことができ始めてきた。 ・今、学校で行われていること、子供たちの様子などを保護者の方と、学校が安心安全な居場所として、そして子供たちの学びの両輪として力を併せていくために、学校HPでは、校長日記を掲載している。今後も随時発信していきたい。今後はさらに、各学年からも担当者を校務分掌に位置づけ、積極的なアウトプットをしていく。 ・全教職員が学校教育目標の達成に向けて、「自分が学校を創っている」という気持ちをもつことで、それぞれの強みを生かし、真の「チーム」としての平小学校を創り、平っ子の自立のために力を合わせ臨んでいきたい。